

令和5年度建設部施策方針

確かな暮らしを守り、信州からゆたかな社会を創る

1 持続可能で安定した暮らしを守る

- (1) 持続可能な脱炭素社会の創出**
「長野県ゼロカーボン戦略」に基づく新築住宅のZEH化や「まち・あい空間」の創出などにより、脱炭素まちづくりを推進します
○住宅オールZEH化推進事業【★】
○県営住宅「5R」プロジェクト推進事業
○歩きやすいまちづくり実証事業（信州まち・あい空間事業）
○まちなかの緑地整備・保全事業
- (2) 災害に強い県づくりの推進**
「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」を最大限活用し、災害に強いインフラ整備による県土の強靱化を進めるとともにソフト対策により地域防災力の向上を推進します
○流域治水対策事業
○要配慮者利用施設を守る土砂災害対策事業
○災害時における道路の迂回機能強化事業
○緊急輸送道路等の防災対策強化事業
○冬期交通を確保する除雪・雪害対策事業
○過疎地域等の市町村道整備代行事業
○住宅・建築物耐震改修総合支援事業
○土壌対策事業
○赤牛先生による地域での防災教育事業
- (3) 社会的なインフラの維持・発展**
各施設の長寿命化計画等に基づき、インフラ機能が安定的に発揮できるよう適正な維持管理に取り組みます
○長寿命化計画等に基づきインフラの適正管理事業
- (4) 県民生活の安全確保**
R3道宇路合同点検による要対策箇所への安全対策を推進します
○通宇路等の交通安全対策推進事業



2 創造的で強靱な産業の発展を支援する

- 地域の建設業等における担い手の確保の推進**
産学官の連携により、次世代を担う人材の確保・育成を推進します
○建設産業の次世代を担う人づくり推進事業
○信州木のある暮らし推進事業（中学校への大工技術者派遣）
- 新3K（給料、休暇、希望）の実現に向け、現場環境の改善を推進します**
○女性技術者等の誰もが活躍できる現場環境の整備
○ICT活用工事やBIM/CIM、現場管理の遠隔化などDXによる効率化や生産性の向上



【★】総合5か年計画重点推進政策

令和5年度 建設部当初予算額 1,146億8,184万円
うち公共事業費（災害復旧含む）835億7,448万3千円
令和4年度11月補正予算額 401億8,947万円
うち公共事業費 345億1,953万7千円（防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化予算等）



3 快適でゆとりのある社会生活を創造する

- (1) 地域の特徴と自然の恵みを生かした快適で魅力ある空間づくりの推進**
歩きたくなるまちづくりに資する新しい街路空間の活用や良好な地域景観の形成に向け取組を推進します
○信州地域デザインセンター（UDC信州）事業
○長野県景観育成計画改訂事業
○歩きやすいまちづくり実証事業（信州まち・あい空間事業）（再掲）
○まちなかの緑地整備・保全事業（再掲）
- (2) 地域活力の維持・発展**
地域の関係者が協働し、地域が持続的に発展するための取組を支援します
○信州地域デザインセンター（UDC信州）事業（再掲）
○空き家適正管理促進事業
- (3) 本州中央部広域交流圏の形成**
高速交通網を最大限に活かした交流の拡大を実現するための道路整備等を推進します
○高規格道路整備事業
○リニアを活かした交流圏拡大道路整備事業
○リニア中央新幹線用地取得事業
- (4) 移住・交流・多様ななかかわりの展開**
県営住宅の居住環境の改善を図るとともに、空き住戸の活用により、多様な世代がつながるミクスコミュニティの形成を推進します
○県営住宅「5R」プロジェクト推進事業（再掲）
- (5) 世界水準の山岳高原観光地づくりの推進**
観光地域の魅力を高めるための基盤づくりを推進します
○観光地づくりに推進に向けた道路環境整備事業（無電柱化、自転車通行空間、道の駅等）
- (6) 「信州やまなみ国スポ・全障スポ」の開催を契機としたスポーツ振興の推進**
「信州やまなみ国スポ・全障スポ」の成功に向け、松本平広域公園陸上競技場の整備を推進します
○都市公園事業（陸上競技場の整備）



4 誰にでも居場所と出番がある社会をつくる

- 若者の結婚・出産・子育ての希望実現**
関係団体等との連携による居住支援や、住みやすい環境に配慮した県営住宅の改修等により、子育て世帯の居住を支援します
○新たな住宅セーフティネット普及事業
○県営住宅「5R」プロジェクト推進事業（再掲）



地域の課題を「連携」と「協働」で解決
○地域戦略推進型公共事業
地域の強みや特色を最大限に活かした地域振興を進めるため、地域のニーズを把握し、県・市町村・地域・民間事業者等の多様な主体による施策をパッケージ化して実施します

信州みちビジョン

● 概要（背景と目的）

近年、道路に求められる役割が多様化するなど状況が変化する中、時代の要請に応じた道路の整備や活用など、今後10年間のみちづくりの方向性を示すものとして「信州みちビジョン」を策定しました*。

（計画期間 2018～2027年度）

今後、県民の皆さまの道路事業への理解を深める際に活用するとともに、道路事業実施時の指針としていきます。

● 基本目標と基本方針

▶ 基本目標 「つなぐ・まもる・いかす 信州のみちづくり」
（3要素をバランスよく進めていきます）

▶ 基本方針

- ・つなぐ（自動車中心から多様な利用者重視の道路網へ等）
- ・まもる（高齢者配慮強化、想定以上の災害も考慮へ等）
- ・いかす（自然環境や地域資源、情報技術の活用等）

● 基本目標と基本方針

I 『持続可能で快適な暮らしを支えるみちづくり』

- (1) コンパクト+ネットワークに資する道路網の構築
- (2) 低炭素社会を目指した道路整備
- (3) 誰もが安心して移動できる道路環境整備

歩道等の要整備箇所



II 『県土の強靱化を担うみちづくり』

- (1) 災害時の人や物資輸送の確保・早期復旧
- (2) 災害対応の迅速化を目指した道路機能等の強化

緊急輸送路の整備例



III 『観光や産業の振興を進めるみちづくり』

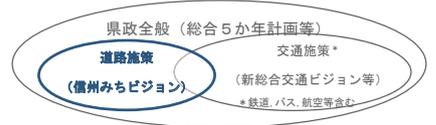
- (1) 産業の生産性や観光の周遊性を高める道路整備
- (2) 観光・産業交通をふまえた安全・安心な道路整備
- (3) 移動を楽しめるみちづくり

サイクリングロードの整備例



*「信州みちビジョン検討委員会」の議論に加え、意見交換会やパブリックコメントなど県民意見もふまえて策定

ビジョンの位置づけ



ビジョンの期間

計画	期間	2019～2017年	2018～2022年	2023～2027年
総合5か年計画		→	→	→
新総合交通ビジョン		→	→	→
信州みちビジョン		→	→	→

